

就勝ノート

⑩

琉球光和



スタッフとも「患者に最適な器具を検討する
仲松和華子さん(右) 20日、琉球光和

ご意見・情報をお寄せください。アドレスは shakai@ryukyushimpo.co.jp

琉球光和

会社概要・採用計画 1963年創業。資本金2千万円。売上高53億円(2010年6月実績)。社員数は86人(うち女性30人)。医療機器・設備の設置やメンテナンスのほか、医療経営のコンサルティング、医療施設の開業支援など病院運営をサポートする。12年4月の採用予定人数は10~15人。2月から会社説明会をはじめ、選考ではグループワークなどの各種面談を数回予定する。

(第2、4水曜日掲載)

1963年に設立されて以来、沖縄に根ざし、医療環境向上に尽力する「挑戦し続ける心」を掲げ、沖縄の長寿再興に向けて、さまざまな方面から医療環境の基盤構築に取り組んでいる琉球光和。医療機器の販売のほか、医療施設への経営支援や医師の独立開業コンサルティングもしている。今回は琉球大卒の入社2年目、ヘルスケア課の仲松和華子さん(24)に話を聞いた。

入社した理由は、「合同企業説明会で話を聞いたのがきっかけ。それまで意識してこなかったが、医療はほとんどの人が関わる、すぐ身近な仕事だと気付いた。他人の人生に深く関わる仕事だということと、この業界に知識の全くない私でも医療環境・施設を支える側に回れるということに魅力を感じた。病院を裏方から支えるという立場も新鮮だった」今の担当は、「オストメイト(人工肛門保有者)用の器具販売を主に担当している。へこの人に聞きました」

◆やりがい 患者と信頼関係構築

◇学生へのアドバイス コミュニケーション大切

ルスカケア課は病院だけでなく、患者個人ともやりとりをする社内での唯一の部署だ。信頼してもらえると患者の悩みを聞くことも多く、自分の仕事の責任の大きさとともにやりがいを感じる。「医療機器提供という事業だが、文系でも大丈夫か。」

「文系でも大丈夫。新卒採用で入社してきた社員は、医療を専門に学んできたという人が少なく、文系出身も多い。私自身も法文学部出身だ。実際に入社して研修を受け、現場に出て知識を身に付けていく部分が多いので、学部学科は問わない」

「求める人材像は。」

「人を相手にする仕事なので、基本はきちんとコミュニケーションが取れる人。ただ医療機器を提供するだけでなく、提案して付加価値を付けることが求められる。相手のニーズを知るためのコミュニケーションが大事。一人で仕事をするわけではないのでチームワークも大事になる」

「会社を成長させたいと思うところは。自身の将来像はどう描いているか。」

「医療は、医師や看護師だけでなく、多くの人の協力で成り立っている。仲間を一人でも増やして会社の力、医療を支える力を強くしたい。個人的には、患者がより快適に医療を受けられる、もしくは社会に復帰して生き生きと生活する、そこを支えることに徹底的にこだわっていききたい」

取材しました

榎田 彩子 (沖縄国際大学法学部3年)

情熱や誇り伝わった

仲松さんの仕事に対する情熱や誇りが表情や言葉から伝わった。今回の取材で人と出会い、その出会いにより信頼を築き、会社や自分自身の生き

方へ生かすということに気が付き、その大切さを学んだ。仲松さんの患者さんに対する心配りにも感動した。今回の取材で得たことを、今後の就活や生活で生かし、私も働く意味を自覚し、人のために役立つ仕事に就きたいと思った。



就勝ノートは琉球新報モバイルからご覧になれます。